

ガーベラのウイルスフリー苗 多様な品種を提供

【静岡支局】ガーベラの生産量全国1位を誇る静岡県。その一翼を担う産地として知られる浜松市中央区に、ガーベラの育苗を専門に扱う内田敦夫さん(53)のグリーンテックがある。個人経営ならではの機動性を生かし、多様な品種のウイルスフリー苗を産地に提供している。

浜松市

グリーンテック

内田 敦夫さん

「2カ月後に会社を置く。継ぐ気はあるか」。新卒で就職してから30年、従業員として勤めてきた内田さんが先代社長から打診されたのは、2020年の夏。突然に訪れた転機に戸惑いながらも、承継の道を選んだ。株式会社を解散し、個人事業主として改めてグリーンテックを開業した。

販売するのはメリクロン苗。交配で親株となる独自品種を生み出すところからスタートする。分裂組織の生長点を切り出し、クロロンを培養。生長点にウイルスが存在しないため、ウイルスフリー苗の量産が可能

少数や急な注文に対応

だ。苗の段階でウイルスに侵されるリスクを排除できるため、品質や収量を安定化できるメリットがある。現在、イチゴやランなどの育苗に広く用いられている技術だが、内田さんによると、ガーベラは形状の特質から難度が高いという。グリーンテックが商品化

した品種は、先代の創業時から数えて延べ3200種に及ぶ。そのうち約400種を保管。地元生産者のほか、九州や関東からも注文が入る。高品質を保つため、最大限の注意を払う。大手種苗会社と競合しても選ばれるには、生産者の評判が武器となるからだ。

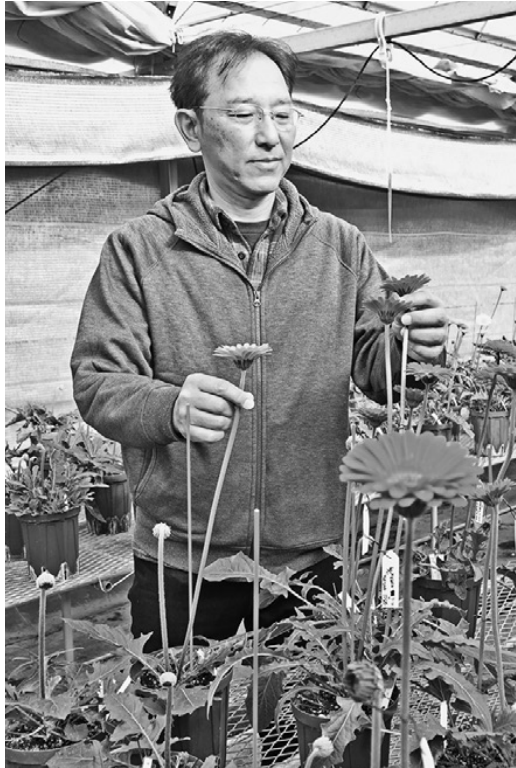
メリクロン苗の育苗は、ウイルスフリーを突き詰める。活着率が低下するジレンマを抱える。両立するには親株の選別、組織の切り出しサイズの見極め、培地の最適化、定植鉢の工夫、梱包・発送・到着時間帯の限定など全ての工程で、これまでのやり方を問

い直す姿勢で改善を積み重ねる。「可能であれば、まずはお客さまの圃場での試作をお勧めしています。圃場の環境と、品種との相性を確かめてもらうことで、より確実な生産につながります」と話す。小規模故の機動性を生かし、大手が対応しない少数

や急な注文に応じる。新品種を出し続けるための研究も欠かさず、毎年30種を追加する。生産者は常に目新しさを求めており、過去の品種にこだわることは顧客離れにつながるからだ。多忙な業務の間を縫って、地元大学などの研究室と交流を持つ。実験の協力などで、双方に有益な情報を共有できるという。培養施設に学生らを招き、現場体験を提供。意見を求めら

れ、助言をすることもあがる。「人が育てば、産地が盛り上がります。彼らは将来の産地を支える仲間です」と内田さん。自身も走り続けながら、後進の育成も後押しする考えだ。

(塚本)



確認する内田さん。交配したガーベラから、新品種の親株を選抜する



培養中の苗の成長を確認する内田さん